

第 2 回 開志専門職大学 事業創造学部

教育課程連携協議会 議事録

1. 日時：2021 年 10 月 5 日（火）15：00～17：00
2. 会場：開志専門職大学 紫竹山キャンパス 7 階会議室
（オンラインでの参加者は Teams にてご参加）
3. 出席者（来 校）：近藤正幸 委員長、徳田賢二 委員長代理、唐木宏一 委員、
武田修美 委員、田中豊 委員
出席者（オンライン）：内山晃子 委員、葉葺正幸 委員
事務局：遠田孝之 学務部課長兼社会連携推進課課長、谷内田真理 社会連携推進課課員

4. 議 事：

1) 報告事項

① 2020 年度教育課程に関する報告

事務局遠田より、資料 1～3 に基づき 2020 年度教育課程を報告した。

- 開学当初から新型コロナウイルス感染症への対策を考慮しながらの運営を余儀なくされた。
- オンライン授業でのスタートに学生・教員ともに戸惑いや苦労が見受けられた。
- 6 月に一部授業を除き対面授業を開始。学生からも喜びの声が聞かれた。
- 7 月には危機管理委員会を組織立てた。新型コロナウイルス感染症発生時の模擬演習を実施したほか、本学としての基本方針と対応について明文化。ルールに乗っ取った運営を行う体制が整った。
- コロナ禍ではあるが、トップランナー研究や土曜講座、現代産業論などにおいてゲスト講師による講義も行うことができた。
- 産官学連携においては臨地実務実習及び開志コラボセミナーを中心に取り組みを行なった。
- 実習は全てオンラインとなり、企業・学生の期待に添えない点もあったが、形にすることができた。

② 2021 年度 第 1・2 学期 教育課程に関する報告

事務局遠田より、資料 4 に基づき 2021 年度第 1・2 学期の教育課程を報告し、近藤委員長による補足説明が行われた。

- 昨年は実施できなかった対面での入学式を開催。授業もスタートから対面で行なった。
- 実習はまだ予断を許さない感染症の対策として、対面・オンライン複合型とした。
- 外部講師の御登壇も数多くいただけており、今後も現場の第一線で活躍している方の話を学生に届けたい思いが強まっている。
- 3、4 学期は企業内実習Ⅰ（1 年生）、企業内実習Ⅱ（2 年生）がスタートしたほか、10/30 は初の大学祭を開催予定である。

2) 審議事項

① 2020 年度及び 2021 年度 課題と評価

報告事項を受け、以下意見交換を行なった。

【実習やオンラインの取り入れについて】

- 近藤学部長：コロナ禍であり、多くの取り組みがオンライン対応を余儀なくされた。PC 機器などの準備が整わないという課題や、マスクで学生の顔を覚えられないなどの課題も感じた。
- 武田委員：臨地実務実習（新規商品開発・販売実習Ⅰ）での受け入れを行った。（株）マグネットとしては選択肢としてオンラインがあると本業とのバランスも取りやすく助かった。オンラインで学生が自発的に進められる体制はありがたく、コロナが収束したら全対面となるかと思うが、オンラインの選択肢を残しておいても良いのではと感じる。
- 葉茸委員：2020 年度企業内実習Ⅰでの受け入れを行なった。実習中はオンライン対応が大変なこともあったが、改めて考えると内容に応じてオンライン対応するのは選択肢としてありだと思う。
- 田中委員：実習の今後のあり方としてオンラインをベースに数回対面を取り入れていくのはどうか？個人的にはオンライン導入時はなかなか馴染めず、オンライン登壇時は学生の様子が見えないことからうまく進められなかった。ただ世の中の「行かないと失礼」という基準がなくなった今、遠方の方をお声掛けする環境が整ったと言えるのではないかな。
- 唐木委員：大学のイベントとしては年間 7～8 回客員教授（企業経営者や旧行政関係者等）から話を聞けるようになっている。コロナ以降は全てオンラインで、全国から御登壇いただいている。授業内でお呼びするゲスト講師は 2020～2021 年度も新潟県内の方であっても基本はオンライン。新潟市近隣の社長にお越しいただくことはある。授業形態としては 8～12 月オンラインとリアル併用の併用、それ以外はオンラインである。今までだったらお願いできなかった方にお願いできるのがオンラインのメリットと考える。

【寄附講座等のセールス対応について】

- 近藤委員長：例えば日本証券協会からの「学生に対する金融リテラシーの講義を無料で」、某協会からの「寄附講座のご案内」などが寄せられている。AC 期間明けに改めて相談することになると思うが、どういう基準で選ぶべきか、ご意見があればお聞きしたい。
- 唐木委員：事業創造大学院大学にもくることがある。フローとしては事務局で受付、学内の学生委員会・教務委員会にて相談を行っている。大学負担でないこと、学生にとってのメリットの検討、後々学生の支障にならないと判断されたら OK とすることがある。なお、学生の学習に直接関わるものは教務委員会、生活など学習以外のものは学生委員会が担当している。
- 田中委員：大学ごとに育成する人物像があり、そこに照準を当てることが大切なのではないか。金融リテラシーが高まるような講義など、開志専門職大学 事業創造学部としての切り口で選択していくと良いのでは？
- 武田委員：その協会の狙いは何なのか？こちらでも把握しておく必要がある。また寄附講座に関して、横浜商科大学での非常勤講師を始めたなら寄附講座の依頼がたくさん来るようになった現

状から、講師側の立場から考えると複雑な思いがある。

- 近藤委員長：例えば日本証券協会であれば、表向きは「金融リテラシーを高め、詐欺まがいの投資案件に引っかからないように」というセールストークだが、その裏には「投資信託・社債の理解を通じて将来のお客様になってほしい」という狙いがあるのではないかと思われる。
- 葉茸委員：講座の概要やその狙いが武田委員同様つかめていない状況ではあるが、必要があれば受ければ良いと思われる。
- 内藤委員：行政に対しては敷居が高いイメージを持たれがちと思っている。若いうちから役所を活用し、身近に感じていただくパートナーとなることを目指して行政側として大学と関係を築けたら嬉しく思う。IPC 財団においては地元企業のお手伝いで無料セミナーを開催している中で、講師派遣の依頼も受けている。その様子をみると「無料であること」を都合の良いように使われる懸念もあり、状況を見極めながら派遣を行っているので、なんらかルール作りが必要と思われる。情報セキュリティにおいてはこれまでよりも高めている現状がある。

全体を通じ、徳田委員長代理より改めて以下大学としての見解を委員の皆さまにお伝えした。

大学の講義は正課・課外があり、課外授業においてはある程度の幅を持たせることもでき、学生にとっても新鮮であると見ている。教務委員長として 5 年目以降目指す姿としては、ぜひ皆様のご協力を賜りたい。オンライン講義について、結果的に見ると学生の様子が見えない、というのは非常に問題であり、逆にいち早く対面講義に舵を切れたのは非常に良く、少人数大学だからこそと言える。学生の反応も上々である。今後も状況を見ながら学生にとっての十分な教育の場作りをしていきたい。

① 産業界お呼び地域社会との連携による授業展開について

5 年目以降の教育について、現在検討を進めている項目を徳田委員長代理より以下の通り説明し、全体で意見交換を行った。該当資料 6～14 について事務局遠田より説明を行なった。

完成年度以降に現行の課題を改善できるよう、全体のカリキュラム再検討を進めていく上で必要と思われる項目を資料 14 にて提示した。内容は以下①で示す目指す人材像に辿り着くことを目的に、②～⑦の検討項目であることが説明された。

- ① 育成する人材像の再明確化
- ② 事業創造を取り巻く社会・経済・技術の進化
- ③ カリキュラム体系
- ④ 既存科目
- ⑤ 新設科目の必要性
- ⑥ 臨地実務実習の具体的な形態
- ⑦ 改廃を検討すべき項目

- 唐木委員：事業創造大学院大学は 15 年ほど経過。できることをとりあえず進めながら、認証評価でうまく行かないところは見直していた。この度 2 回目の認証評価をクリアできたため、今

後は計画的に進めていくようなところである。教務マターではなく、学生の教育に関わる全ての委員長が将来構想を考え始めている。

- 近藤委員長：外部評価という観点は新しい発見であり、貴重なご意見をお聞きできた。
- 葉茸委員：育成する人物像が明確でわかりやすくなった。開志というキーワードにもあるように、知識・技術だけではなく人の内面的な部分の育成がとても大切であるのではないか。大学名にもあるように、「志」を持つことが物事を乗り越えていくにあたり、かなり重要なのではないかと実体験から感じている。
- 内藤委員：このコロナ禍で波にのまれている事業者と接する機会が多く、大きな社会の変化を体感している。辛い状況で心が折れるか否か、それはまさに志を強く持つことの大切さだと思う。
- また、オンラインは熱を伝えにくい、とも感じている。リアルもかなり再開してきているので、高い志を持つ方の熱が伝播していくような機会が学生に用意できると、将来つまずいた時の支えになるのではないか。
- 武田委員：時代が大きく変わり、この変化は起業家にとって大きい。どの時代でも大変ではあるが、社会性などはより色濃く必要になってきていると感じる。志高くチャレンジしようと入学してきている学生を支えるカリキュラムとは？を模索する必要性がある。カリキュラム一案として、臨地実務実習（社長の抱持ちなど）が一番の近道ではないかと思われる。自身の業界のこともふまえると DX・サービスやコンテンツに対する UX の理解がこれからの商売において大切だとは思っている。
- 目指す人物像で提示された「ビジネスクリエイター」はプロデュース・クリエイティブの学びが大切ではないか。現カリキュラムだとデザインシンキングが該当するかと思うが、その分野の見直しが必要かと思う。
- 田中委員：会社を設立した時を思い起こすと、数字の取扱や決算書の読み時など創業後に学び、在学中に学べていたらと思うことがあった。この分野を何か改善していけないか。
- 正解を探すのではなく、柔軟に考えて状況に対応できるようなブレインストーミングや、グリット（最後までやり抜く力）を身につけられる機会も必要ではないかと思われる。
- 徳田委員長代理：池田会長のセミナーより、志はただ持つのではなく、その背景にある経済・事業理解が大切であること、改めて実感した。学生の「志の種」を大学側がきちんと見つけ、伸ばしてあげること。また志を持つ姿を見せる、ということも大切であると、本日の委員会で委員の皆様意見を聞いて感じた。教務委員会内では、他の教員の講義の様子が見えないという状況がある。講義の見える化を進めることで、どんな授業をして学生にどんな教育をしているのか共有しながら進められるのでは？とも考えられた。
- 近藤委員長：事業創造大学院大学では他の教員が授業見学、コメントをするという制度がある。最終的に何をどのように伝えるのか、伝え方を他の教員から学ぶこともできる。一方で、見学不可の大学もある。

上記意見交換を行なったのち、今年度授業の進捗報告や、完成年度に向けたカリキュラム検討の原案提示を次回は予定していることが近藤委員長より共有された。事務局遠田より、次回開催は4学期終了後の2月下旬から～3月上旬を予定していることが示された。

5. 資料

- 【資料 1】教育課程連携協議会 構成員名簿
- 【資料 2】事業創造学部運営報告【2020】
- 【資料 3】開志専門職大学 2020 学事歴
- 【資料 4】事業創造学部運営報告【2021】
- 【資料 5】開志専門職大学 2021 学事歴
- 【資料 6】臨地実務実習シラバス（企業内実習Ⅰ、Ⅱ、新規商品開発・販売実習Ⅰ）
- 【資料 7】臨地実務実習受け入れ企業一覧【2020-2021】
- 【資料 8】事業創造学部 2020-21 年度 講義実績
- 【資料 9】事業創造学部 教育課程等の概要
- 【資料 10】事業創造学部 カリキュラム体系図
- 【資料 11】事業創造学部 授業科目の概要
- 【資料 12】履修モデル
- 【資料 13】キャリアセンター資料
- 【資料 14】2021 年度 1 回目 完成年度以降のカリキュラム改訂に伴う検討項目（案）

以上